

平成18年度「学術情報基盤実態調査」の結果報告（概要）

1 調査概要

目的	: 国公立大学の学術情報基盤（大学図書館、コンピュータ及びネットワーク等）についての現状を明らかにし、その改善の基礎資料とする。
調査対象	: 国公立大学（国立 87 大学、公立 76 大学、私立 571 大学の計 734 大学）
調査方法	: 各大学長あてに調査票を郵送し、記入後、電子的に回収、集計。
調査基準日	: 平成 18 年 5 月 1 日現在（調査項目によっては、平成 17 年度末、平成 17 年度実績）
回答率	: 100.0%

2 調査結果の主なポイント

《大学図書館編》

1 電子図書館的機能の整備状況

- ◇図書館ホームページを通じた全文閲覧、資料検索及び依頼申込等の各種サービスの提供は、国立大学 100%、公立大学 96.1%、私立大学 86.0%と高い実施率を維持…2 頁
- ◇電子ジャーナルの総所蔵種類数は、国公立大学全体で対前年度 25.8%の増で、増加傾向が継続…3 頁

2 時間外開館・休日開館の実施状況

- ◇国公立大学いずれも時間外開館の実施率が増加しており、国立大学においては土曜開館について 100%の実施率を達成し、休日についても 85.1%の高い実施率…4, 5, 6 頁

3 大学図書館の管理運営等に関する大学の課題認識

- ◇国公立大学全体では、専門性を有する人材の養成・確保及び資料所蔵スペース狭隘化の解消を課題と認識…7 頁

《コンピュータ及びネットワーク編》

1 コンピュータ及びネットワークの整備状況及び課題認識

- ◇学内 LAN（学内ネットワーク）の通信速度は、国公立大学全体で 64.3%の大学が、1Gbps 以上 10Gbps 未満（家庭で使用される一般的な最高通信速度（100Mbps）の 10～100 倍）の通信速度で整備…8 頁
- ◇無線 LANは、国公立大学全体で 59.5%の大学が整備…9 頁
- ◇学生が教育研究のために利用するパソコンは、大学が整備すると考える大学が、国公立大学全体で 58.0%…9 頁
- ◇一方、経費面において、国公立大学全体で 33.1%の大学が、システムの管理運営に係る経費の確保を、また 27.9%の大学が、学内 LANの管理運営に係る経費の確保を課題と認識…12 頁

2 情報リテラシー教育の実施状況

- ◇情報リテラシー教育は、国公立大学全体で 92.6%の大学が実施…10 頁

3 セキュリティ対策の状況及び課題認識

- ◇全学的な学内認証基盤は、国公立大学全体で 62.5%の大学が導入…11 頁
- ◇一方、設備面において、国公立大学全体で 33.5%の大学が、セキュリティ対策の充実に課題と認識…12 頁

1. 電子図書館的機能の整備状況

(1) 図書館ホームページでサービスを提供している大学数と実施率（平成17年度）

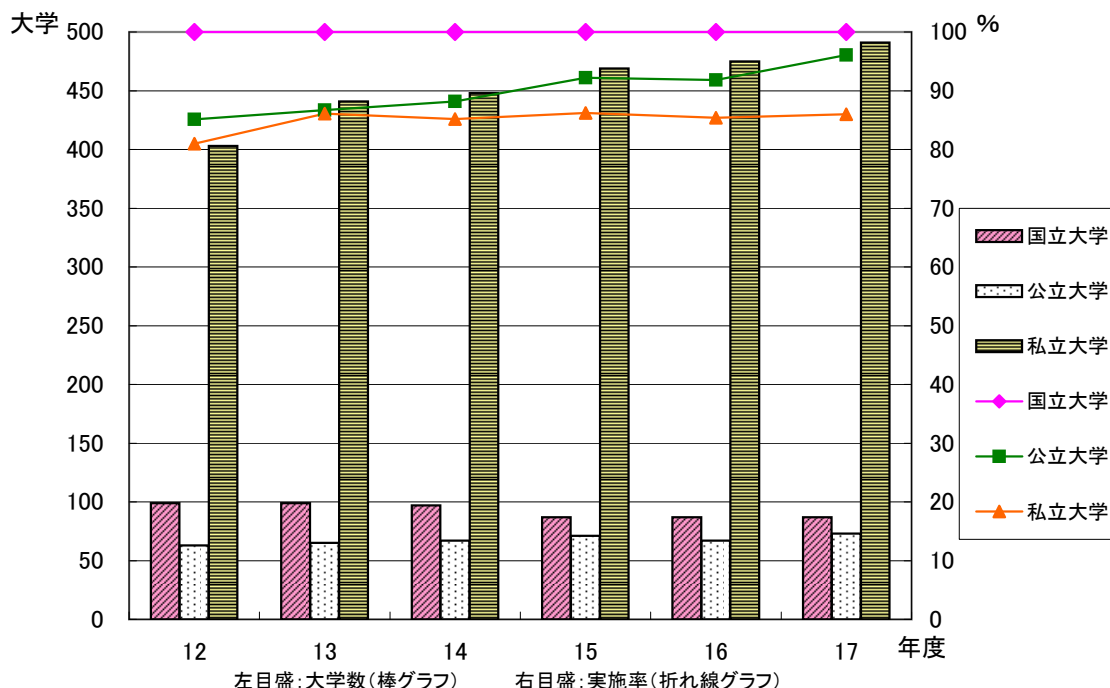
図書館ホームページを通じて全文閲覧、資料検索及び依頼申込等のサービスを提供している大学は、国立大学100% (87大学)、公立大学96.1% (73大学)、私立大学86.0% (491大学)と高い実施率を維持しています。

(参考)

「全文閲覧サービス」：電子ジャーナル、紀要・学术论文等の学内生産物、学位論文（修士論文・博士論文）等、全文が電子的な形で閲覧できるものを指します。

「資料検索サービス」：どのような資料が図書館にあるのか調べる時、或いは、あるテーマについてどのような論文があるか調べる時に使う検索システムを指します。

「依頼申込サービス」：パソコン上でできる貸出予約、文献複写依頼、現物貸借依頼及び図書等購入依頼等のシステムを指します。



(注)平成13年度以前は図書館から学内LANへのサービス、平成14年度は図書館ホームページでのサービスについて調査した。なお、本項目については、平成17年度調査から中央図書館だけでなく、分館・及び部局図書館・室において回答するように変更した。平成17年度は中央図書館の実績を基に算出したものである。

・図書館ホームページでサービスを提供している大学数（各年度実績）（棒グラフ）

単位：大学

年度	12	13	14	15	16	17
国立大学	99	99	97	87	87	87
公立大学	63	65	67	71	67	73
私立大学	403	441	448	469	475	491
合計	565	605	612	627	629	651

・上記のサービス提供の実施率（各年度実績）（折れ線グラフ）

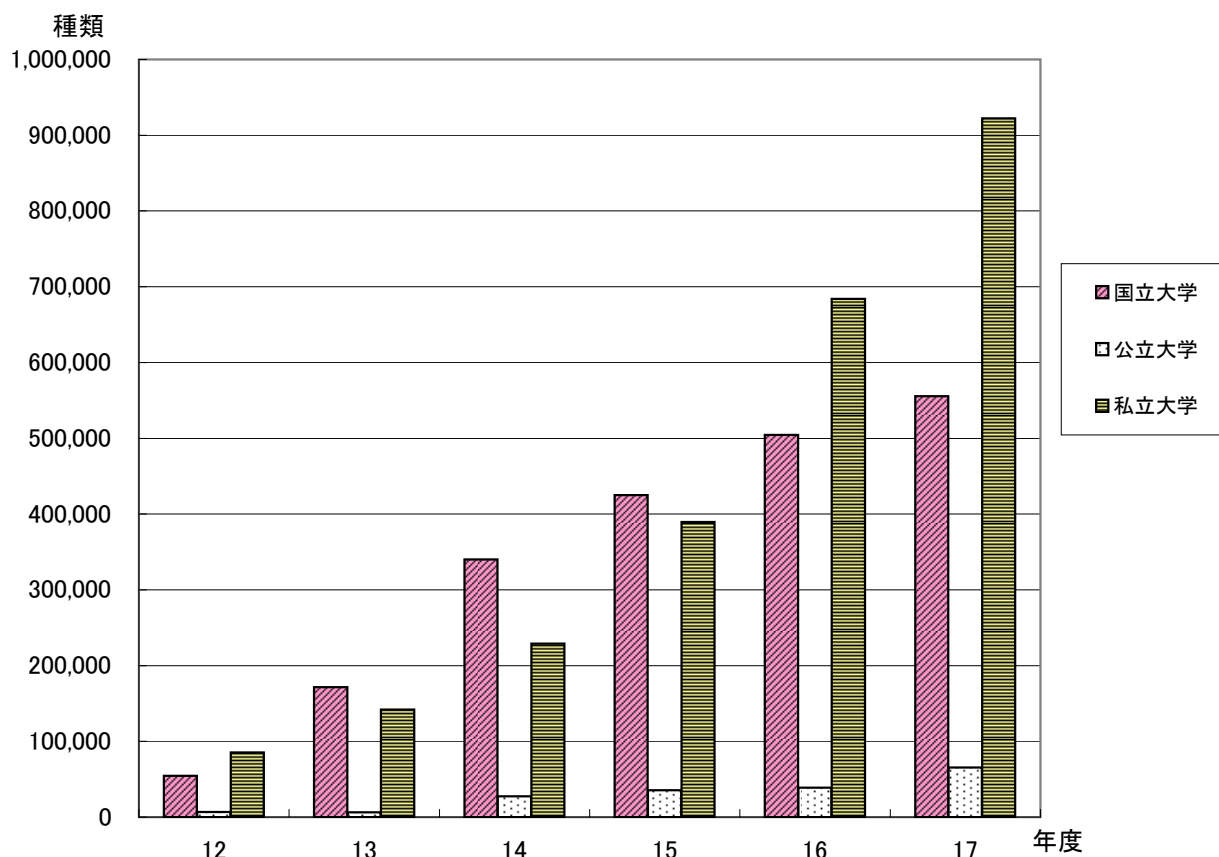
単位：%

年度	12	13	14	15	16	17
国立大学	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
公立大学	85.1	86.7	88.2	92.2	91.8	96.1
私立大学	81.0	86.1	85.2	86.2	85.4	86.0
合計	84.3	88.2	87.6	88.6	87.8	88.7

(2) 電子ジャーナルの総所蔵種類数と平均所蔵種類数 (平成17年度)

電子ジャーナル（電子媒体によって提供される形態の雑誌）の総所蔵種類数は、前年度に比べ国公立大学全体で25.8%(316,187種類)増となり、増加傾向が継続しています。

内訳は、国立大学10.2%(51,316種類)増、公立大学68.2%(26,575種類)増、私立大学34.8%(238,266種類)増となっています。



・ 総所蔵種類数（年度末日現在）（棒グラフ） 単位：種類

年度	12	13	14	15	16	17
国立大学	54,443	171,422	340,012	424,843	504,356	555,702
公立大学	6,654	6,479	27,405	35,613	38,986	65,561
私立大学	85,228	141,826	229,129	389,647	683,810	922,076
合計	146,325	319,727	596,546	850,103	1,227,152	1,543,339

・ 平均所蔵種類数（年度末日現在） 単位：種類

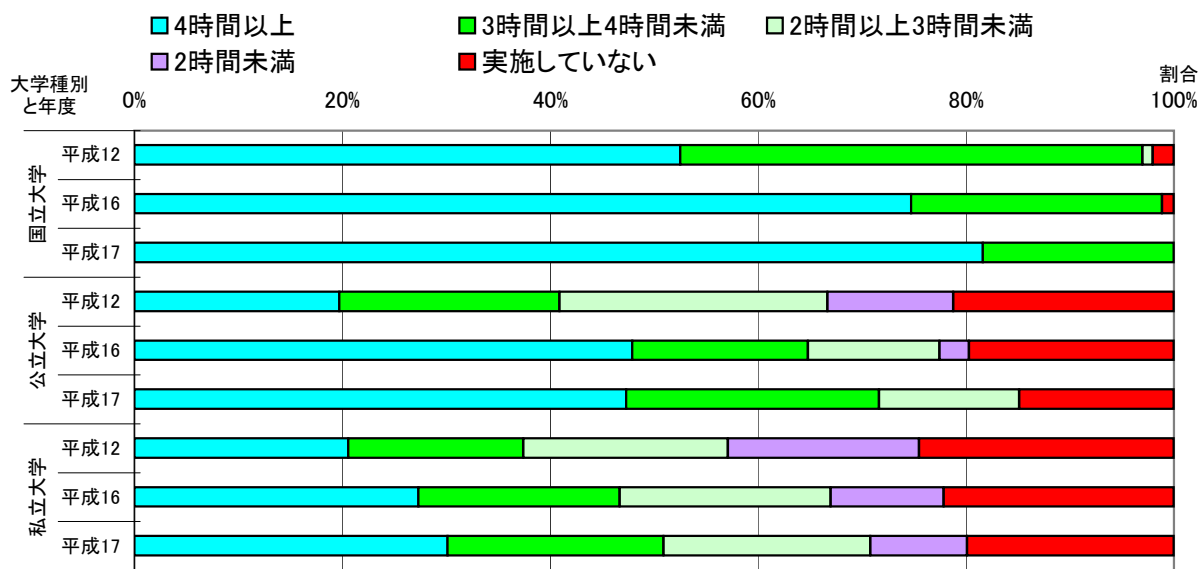
年度	12	13	14	15	16	17
国立大学	550	1,732	3,505	4,883	5,797	6,387
公立大学	90	86	361	463	534	863
私立大学	171	277	436	716	1,230	1,615
合計	218	466	853	1,201	1,714	2,103

※種類数はのべ数

2. 時間外開館・休日開館の実施状況（中央図書館の状況）

（1）平日の時間外開館の実施状況（平成17年度）

平日の時間外開館の実施率は、国立大学100%（87大学）、公立大学85.1%（63大学）、私立大学80.1%（447大学）と増加傾向が続き、国立大学は100%の実施率を達成しました。



・平日の時間外開館の実施時間

単位：大学

		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	2時間未満	小計	実施して いない	合計
国立大学	平成12	52	44	1	0	97	2	99
	平成16	65	21	0	0	86	1	87
	平成17	71	16	0	0	87	0	87
公立大学	平成12	13	14	17	8	52	14	66
	平成16	34	12	9	2	57	14	71
	平成17	35	18	10	0	63	11	74
私立大学	平成12	94	77	90	84	345	112	457
	平成16	148	105	110	59	422	120	542
	平成17	168	116	111	52	447	111	558
合計	平成12	159	135	108	92	494	128	622
	平成16	247	138	119	61	565	135	700
	平成17	274	150	121	52	597	122	719

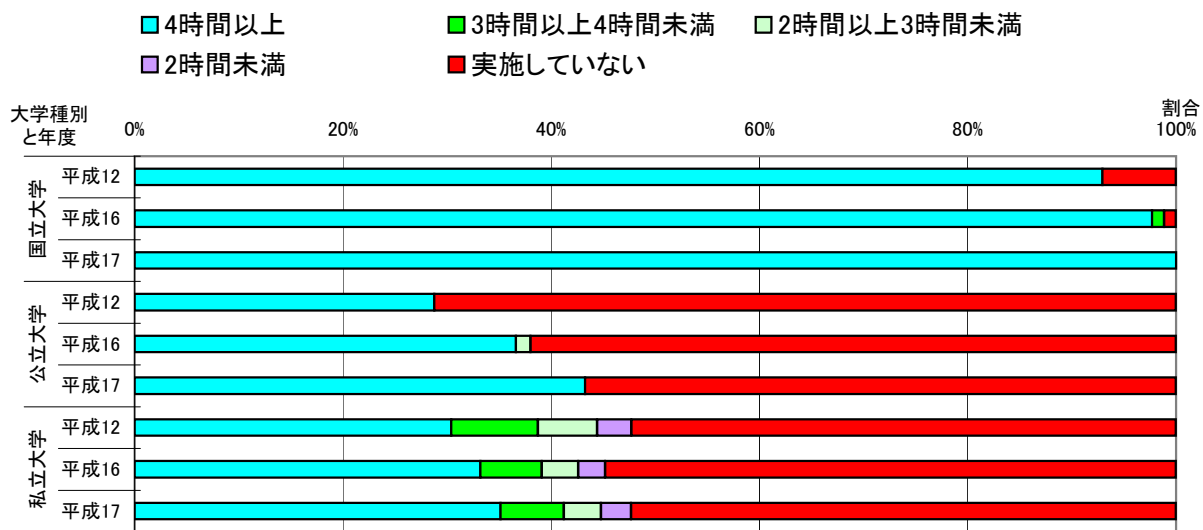
・平日の時間外開館の実施率

単位：%

区 分	年 度	実施している				小計	実施して いない	合 計
		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	2時間未満			
国立大学	平成12	52.5	44.4	1.0	0.0	98.0	2.0	100.0
	平成16	74.7	24.1	0.0	0.0	98.9	1.1	100.0
	平成17	81.6	18.4	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
公立大学	平成12	19.7	21.2	25.8	12.1	78.8	21.2	100.0
	平成16	47.9	16.9	12.7	2.8	80.3	19.7	100.0
	平成17	47.3	24.3	13.5	0.0	85.1	14.9	100.0
私立大学	平成12	20.6	16.8	19.7	18.4	75.5	24.5	100.0
	平成16	27.3	19.4	20.3	10.9	77.9	22.1	100.0
	平成17	30.1	20.8	19.9	9.3	80.1	19.9	100.0
合計	平成12	25.6	21.7	17.4	14.8	79.4	20.6	100.0
	平成16	35.3	19.7	17.0	8.7	80.7	19.3	100.0
	平成17	38.1	20.9	16.8	7.2	83.0	17.0	100.0

(2) 土曜日の時間外開館の実施状況（平成17年度）

土曜日の時間外開館の実施率は、国立大学100% (87大学)、公立大学43.2% (32大学)、私立大学47.7% (266大学)となっており、国立大学は100%の実施率を達成しました。



・土曜日の時間外開館の実施時間

単位：大学

区 分	年 度	実施している				小計	実施して いない	合 計
		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	2時間未満			
国立大学	平成12	92	0	0	0	92	7	99
	平成16	85	1	0	0	86	1	87
	平成17	87	0	0	0	87	0	87
公立大学	平成12	19	0	0	0	19	47	66
	平成16	26	0	1	0	27	44	71
	平成17	32	0	0	0	32	42	74
私立大学	平成12	139	38	26	15	218	239	457
	平成16	180	32	19	14	245	297	542
	平成17	196	34	20	16	266	292	558
合計	平成12	250	38	26	15	329	293	622
	平成16	291	33	20	14	358	342	700
	平成17	315	34	20	16	385	334	719

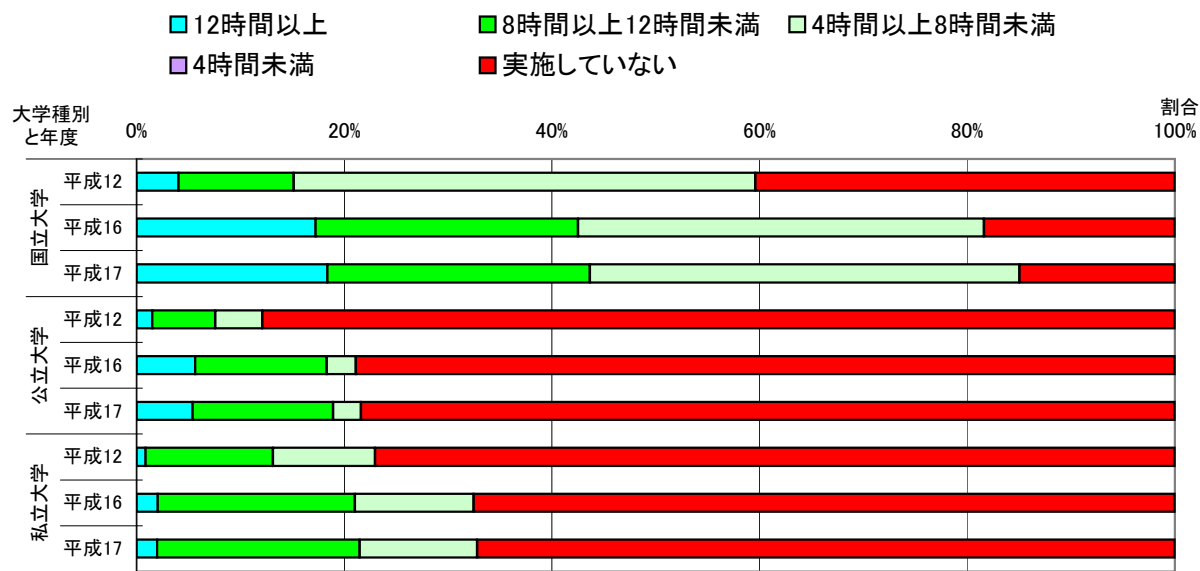
・土曜日の時間外開館の実施率

単位：%

区 分	年 度	実施している				小計	実施して いない	合 計
		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	2時間未満			
国立大学	平成12	92.9	0.0	0.0	0.0	92.9	7.1	100.0
	平成16	97.7	1.1	0.0	0.0	98.9	1.1	100.0
	平成17	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
公立大学	平成12	28.8	0.0	0.0	0.0	28.8	71.2	100.0
	平成16	36.6	0.0	1.4	0.0	38.0	62.0	100.0
	平成17	43.2	0.0	0.0	0.0	43.2	56.8	100.0
私立大学	平成12	30.4	8.3	5.7	3.3	47.7	52.3	100.0
	平成16	33.2	5.9	3.5	2.6	45.2	54.8	100.0
	平成17	35.1	6.1	3.6	2.9	47.7	52.3	100.0
合計	平成12	40.2	6.1	4.2	2.4	52.9	47.1	100.0
	平成16	41.6	4.7	2.9	2.0	51.1	48.9	100.0
	平成17	43.8	4.7	2.8	2.2	53.5	46.5	100.0

(3) 休日開館の実施状況（平成17年度）

休日開館の実施率は、国立大学85.1%(74大学)、公立大学21.6%(16大学)、私立大学32.8%(183大学)となっており、国立大学が高い実施率となっています。



・休日開館の実施時間

単位：大学

区 分	年 度	実施している				小計	実施して いない	合 計
		12時間以上	8時間以上 12時間未満	4時間以上 8時間未満	4時間未満			
国立大学	平成12	4	11	44	0	59	40	99
	平成16	15	22	34	0	71	16	87
	平成17	16	22	36	0	74	13	87
公立大学	平成12	1	4	3	0	8	58	66
	平成16	4	9	2	0	15	56	71
	平成17	4	10	2	0	16	58	74
私立大学	平成12	4	56	45	0	105	352	457
	平成16	11	103	62	0	176	366	542
	平成17	11	109	63	0	183	375	558
合計	平成12	9	71	92	0	172	450	622
	平成16	30	134	98	0	262	438	700
	平成17	31	141	101	0	273	446	719

・休日開館の実施率

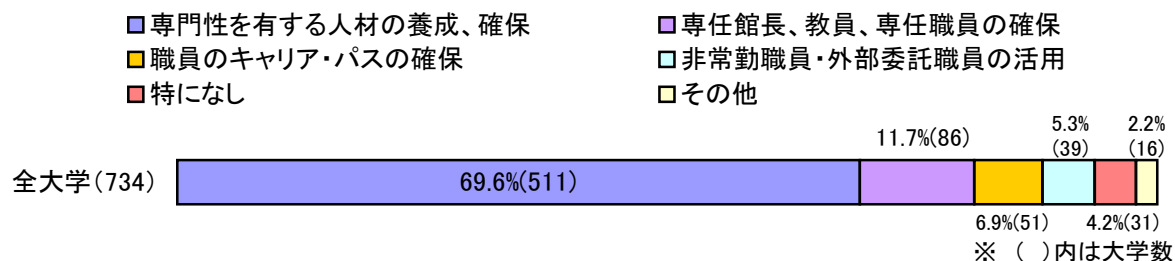
単位：%

区 分	年 度	実施している				小計	実施して いない	合 計
		12時間以上	8時間以上 12時間未満	4時間以上 8時間未満	4時間未満			
国立大学	平成12	4.0	11.1	44.4	0.0	59.6	40.4	100.0
	平成16	17.2	25.3	39.1	0.0	81.6	18.4	100.0
	平成17	18.4	25.3	41.4	0.0	85.1	14.9	100.0
公立大学	平成12	1.5	6.1	4.5	0.0	12.1	87.9	100.0
	平成16	5.6	12.7	2.8	0.0	21.1	78.9	100.0
	平成17	5.4	13.5	2.7	0.0	21.6	78.4	100.0
私立大学	平成12	0.9	12.3	9.8	0.0	23.0	77.0	100.0
	平成16	2.0	19.0	11.4	0.0	32.5	67.5	100.0
	平成17	2.0	19.5	11.3	0.0	32.8	67.2	100.0
合計	平成12	1.4	11.4	14.8	0.0	27.7	72.3	100.0
	平成16	4.3	19.1	14.0	0.0	37.4	62.6	100.0
	平成17	4.3	19.6	14.0	0.0	38.0	62.0	100.0

3. 大学図書館の管理運営等に関する課題(平成18年5月1日現在)

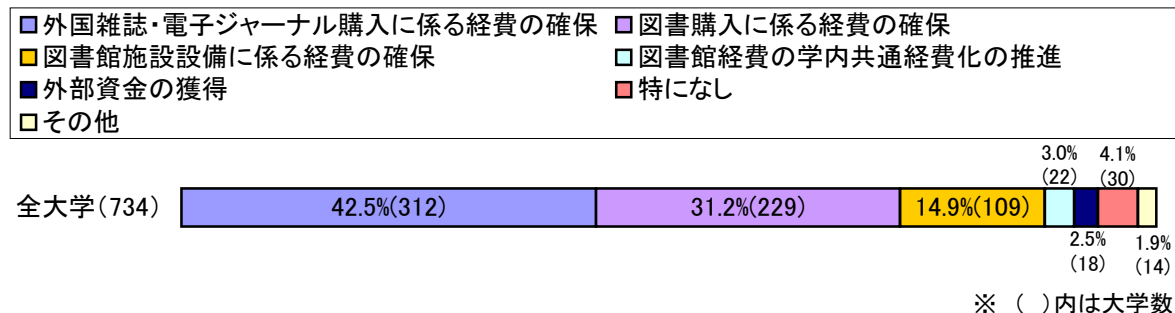
(1) 組織・人員面における課題

組織・人事面においては、69.6%の大学が「専門性を有する人材の養成・確保」を課題として挙げています。



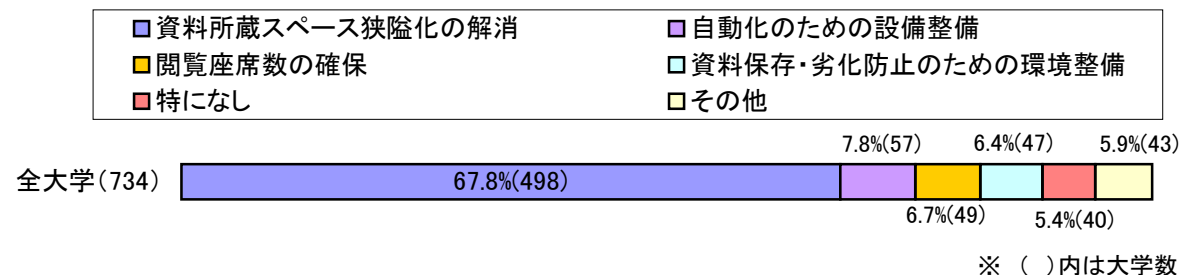
(2) 経費面における課題

経費面においては、42.5%の大学が「外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費の確保」を課題として挙げています。



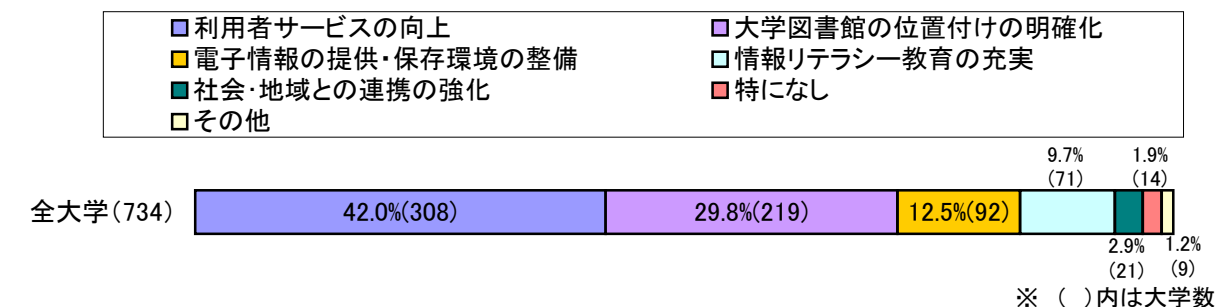
(3) 設備面における課題

設備面においては、67.8%の大学が「資料所蔵スペース狭隘化の解消」を課題として挙げています。



(4) 運営・サービス面における課題

運営・サービス面においては、42.0%の大学が「利用者サービスの向上」を課題として挙げています。



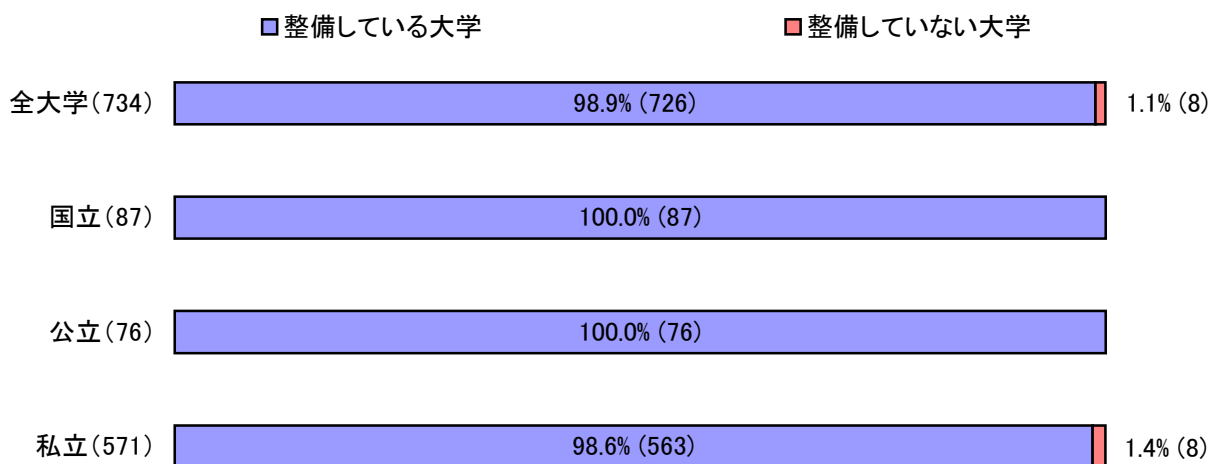
《コンピュータ及びネットワーク編》

1. コンピュータ及びネットワークの整備状況

(1) 学内LAN及び無線LANの整備状況（平成18年5月1日現在）

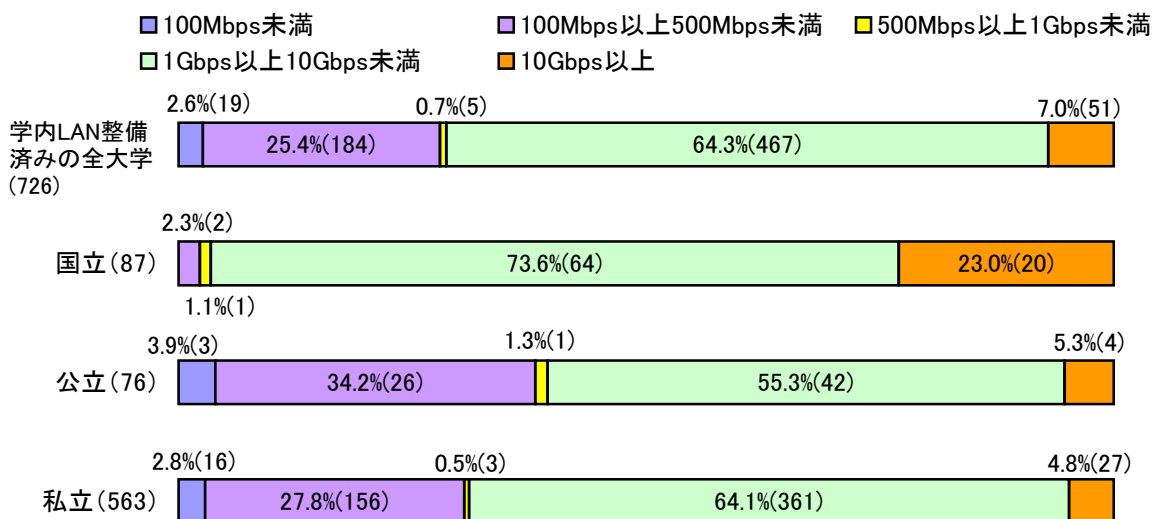
- ・ 学内LAN(学内ネットワーク)の整備状況については、国公私立大学を通じ、ほぼ全ての大学で整備されています。
- ・ 学内LANの通信速度については、1 Gbps以上10Gbps未満（家庭で使用される一般的な最高通信速度（100Mbps）の10～100倍）の通信速度で整備している大学が、64.3%（467大学）となっています。
- ・ 無線LANの整備状況については、国公私立大学全体で59.5%（437大学）で整備されています。

○学内LANの整備状況



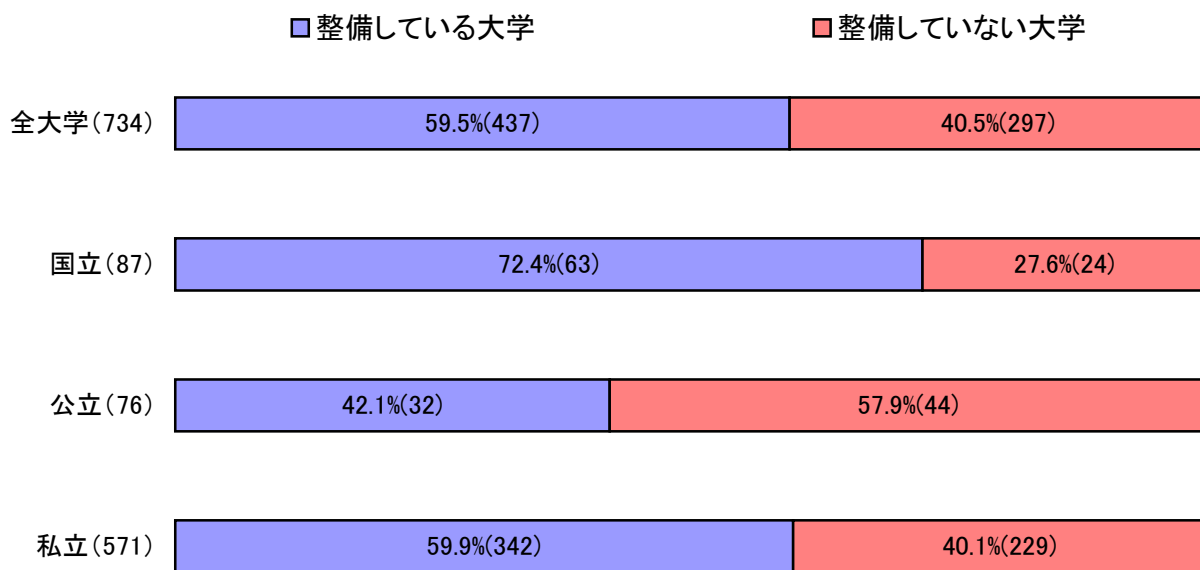
※ ()内は大学数

○学内LANの通信速度



※ ()内は大学数

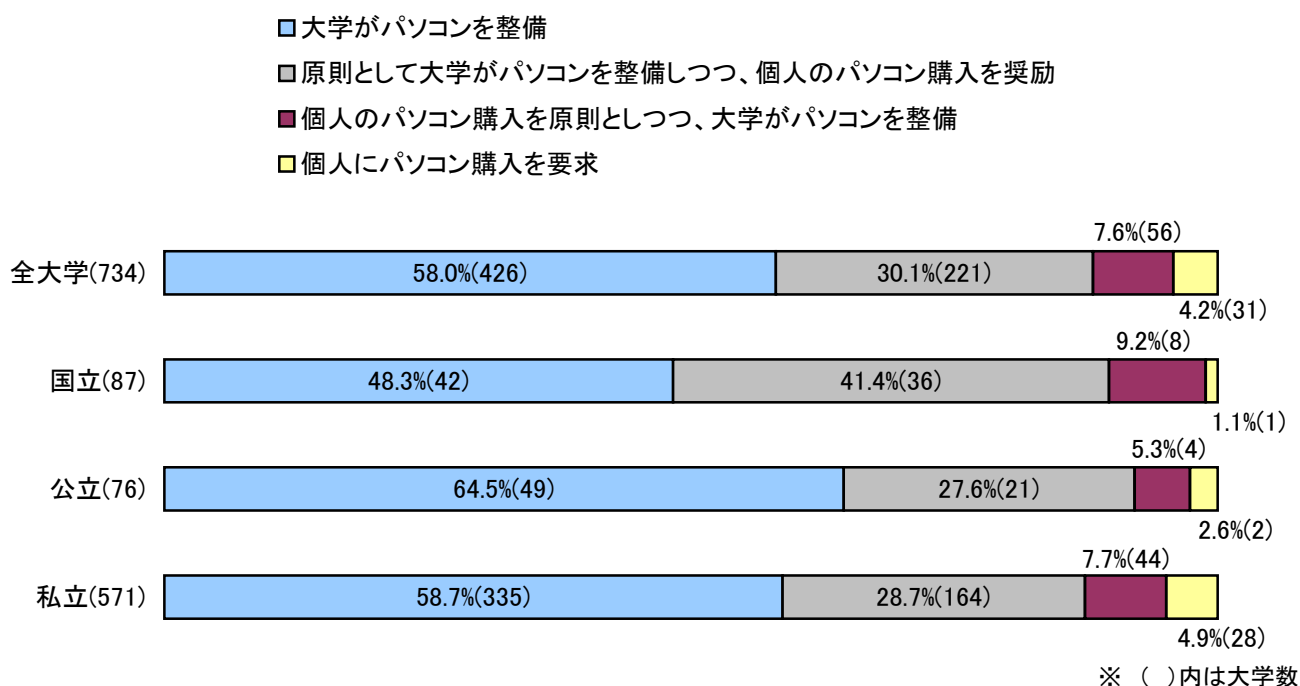
○無線LANの整備状況



※ ()内は大学数

(2) 学生が教育研究のために利用するパソコンの整備に対する、大学としての主な考え方 (平成18年5月1日現在)

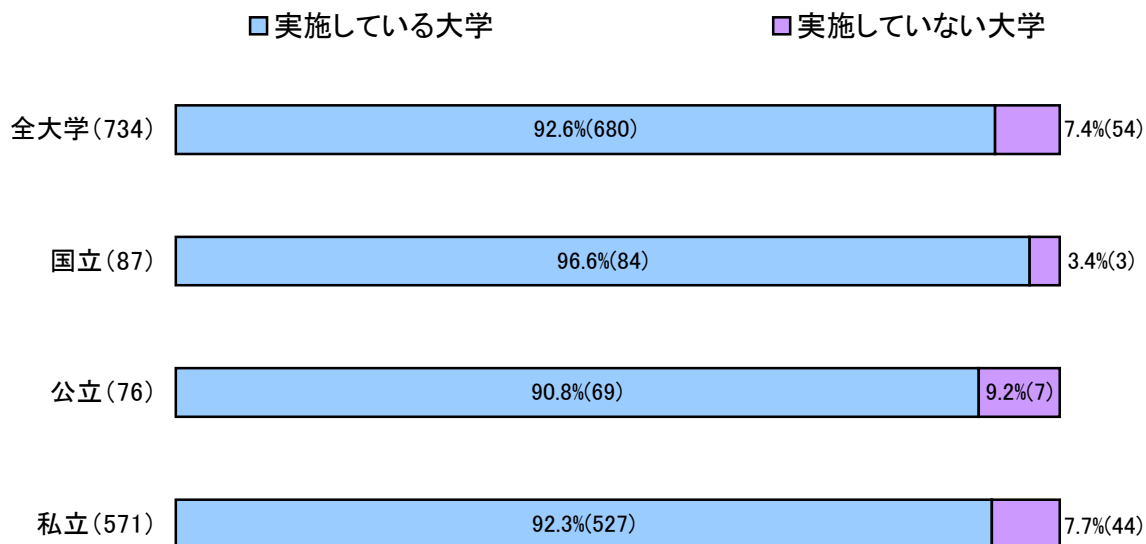
学生が教育研究のために利用するパソコンについては、大学が整備すると考える大学が、国公私立大学全体で58.0% (426大学) となっており、原則として大学が整備しつつ、個人の購入を奨励すると考える大学が30.1% (221大学) となっています。



※ ()内は大学数

2. 情報リテラシー教育の実施状況（平成17年度）

情報リテラシー教育については、国公私立大学全体で92.6%（680大学）の大学で実施されています。教育内容としては、学内LANを利用するために必要な操作方法・技術・ルールや、情報セキュリティ、倫理・マナーなどが行われています。

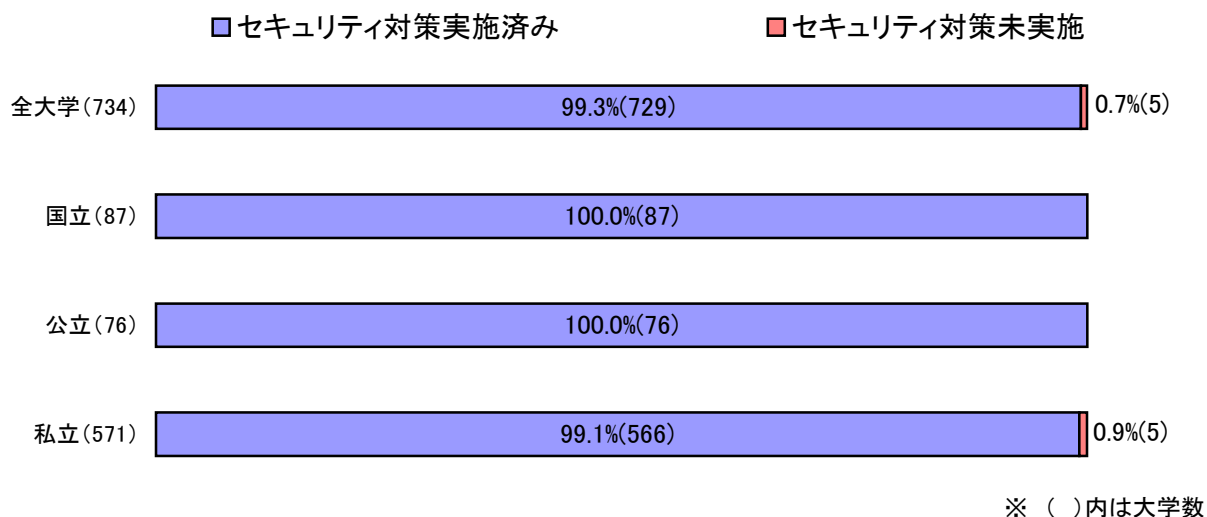


※ ()内は大学数

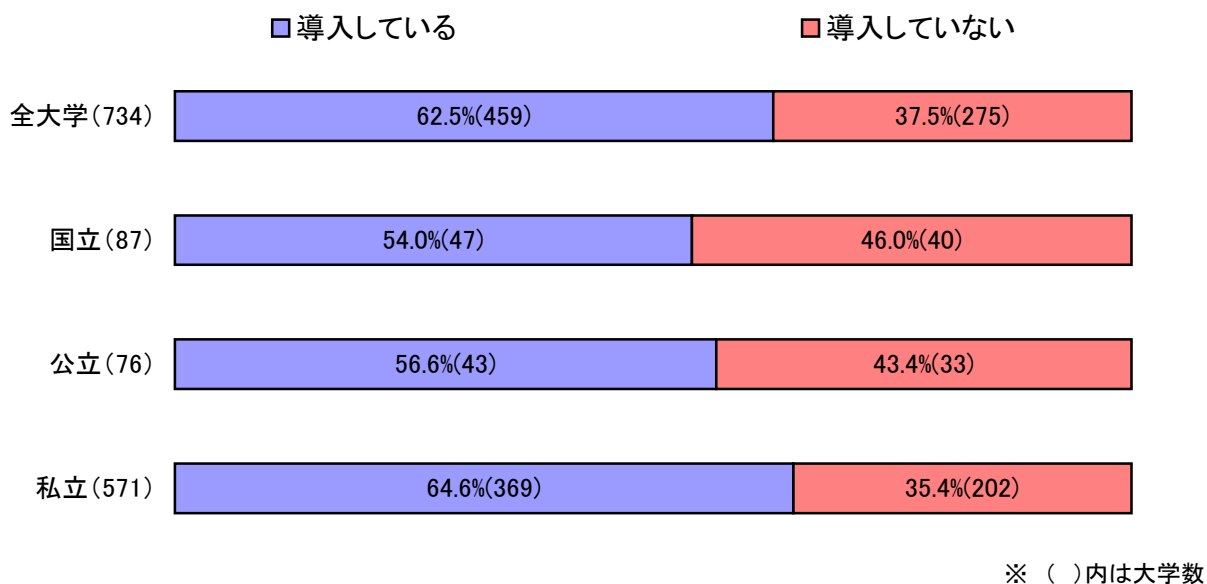
3. セキュリティ対策の状況（平成18年5月1日現在）

- ・ セキュリティ対策は国公立大学を通じ、ほぼ全ての大学で実施されています。
- ・ 全学的な学内認証基盤は、国公立大学全体のうち62.5%（459大学）で導入されています。

○セキュリティ対策の状況



○全学的な学内認証基盤の導入状況

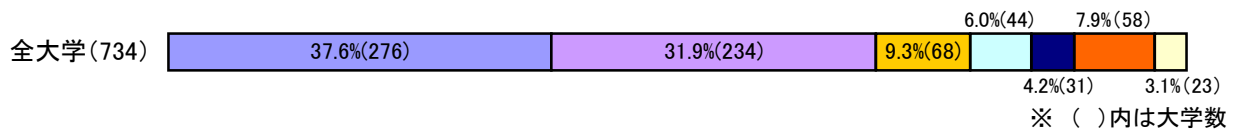


4. コンピュータ及びネットワークの管理運営に関する大学の課題（平成18年5月1日現在）

（1）組織・人員面における課題

組織・人事面においては、37.6%の大学が「技術職員不足の解消」を、また31.9%の大学が「情報関連組織の再編・統合」を課題として挙げています。

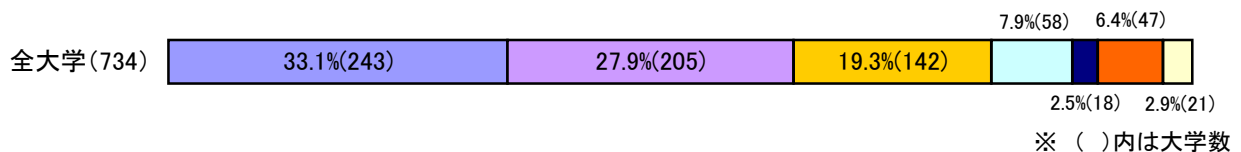
- 技術職員不足の解消
- 事務職員不足の解消
- その他
- 情報関連組織の再編・統合
- 教員不足の解消
- 教職員のキャリア・パスの確保
- 特になし



（2）経費面における課題

経費面においては、33.1%の大学が「システムの管理運営に係る経費の確保」を、また27.9%の大学が「学内LANの管理運営に係る経費の確保」を課題として挙げています。

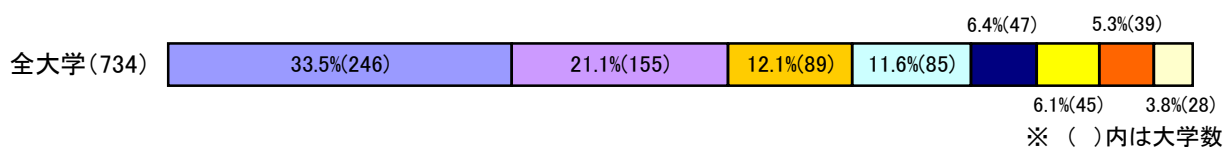
- システムの管理運営に係る経費の確保
- セキュリティに係る経費の確保
- 外部資金の獲得
- その他
- 学内LANの管理運営に係る経費の確保
- その他の管理運営に係る経費の確保
- 特になし



（3）設備面における課題

設備面においては、33.5%の大学が「セキュリティ対策の充実」を課題として挙げています。

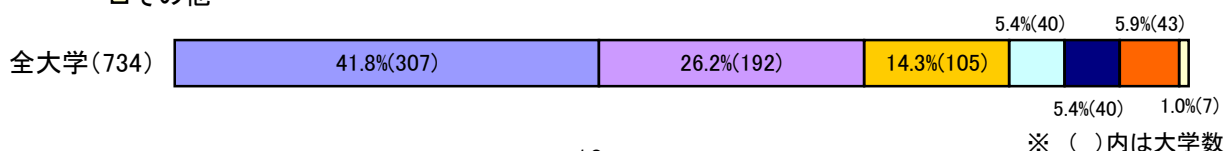
- セキュリティ対策の充実
- システムの老朽化・陳腐化
- 学内LANにおけるボトルネックの解消
- 特になし
- 学内LANの老朽化・陳腐化
- 学内認証基盤の構築
- 全学的な無線LANの構築
- その他



（4）運営面における課題

運営面においては、41.8%の大学が「情報戦略の確立」を課題として挙げています。

- 情報戦略の確立
- ネットワーク環境の教育への活用不足
- 外部委託の活用不足
- その他
- セキュリティポリシーの確立
- 個人情報保護体制の確立
- 特になし



大学図書館や情報関係施設の特色ある取組

文部科学省で、このたび平成 18 年度学術情報基盤実態調査の結果を取りまとめました。これにあわせて、大学図書館あるいはコンピュータ及びネットワーク等に関する特色ある取組を紹介いたします。

- **九州地区の国立大学間の連携による査読付き学術論文集の電子出版**
 国立大学協会九州地区支部：大学図書館で運営する学術機関リポジトリを活用した電子出版への取組…14 頁



- **東北大学が東京を会場にして貴重資料の大規模公開を実施**
 東北大学附属図書館：博物館・報道機関との共催により所蔵する「漱石文庫」を本格的に紹介し、9 万人もの参加…15 頁



- **古典籍 30 万点の画像情報を網羅的に 5 年計画でデータベース化し、一般に公開**
 早稲田大学図書館：国宝、重要文化財を含む 30 万点の和漢の貴重な古典籍の画像データベースをインターネットで公開…16 頁



- **学内情報システムの一元化による学生指導の充実と業務の効率化**
 名古屋工業大学：学生証・職員証の IC カード化による全学統一認証基盤及びポータル機能の導入による学内の教育・事務システムの一元化…17 頁



- **情報科学への理解増進及び地域の情報教育の推進**
 北海道大学情報基盤センター：高校生等を対象とした、情報教育及びプログラミング教育を実施…18 頁



九州地区の国立大学間の連携による査読付き学術論文集の電子出版

(国立大学協会九州地区支部)

大学図書館で運営する学術機関リポジトリを活用した電子出版への取組

国立大学協会九州地区支部では、地区内の大学間連携事業の一環として、各大学が共同して編集を行い、学術機関リポジトリ(*)を活用した新たな学術論文集の刊行に向け平成18年度から取り組んできました。

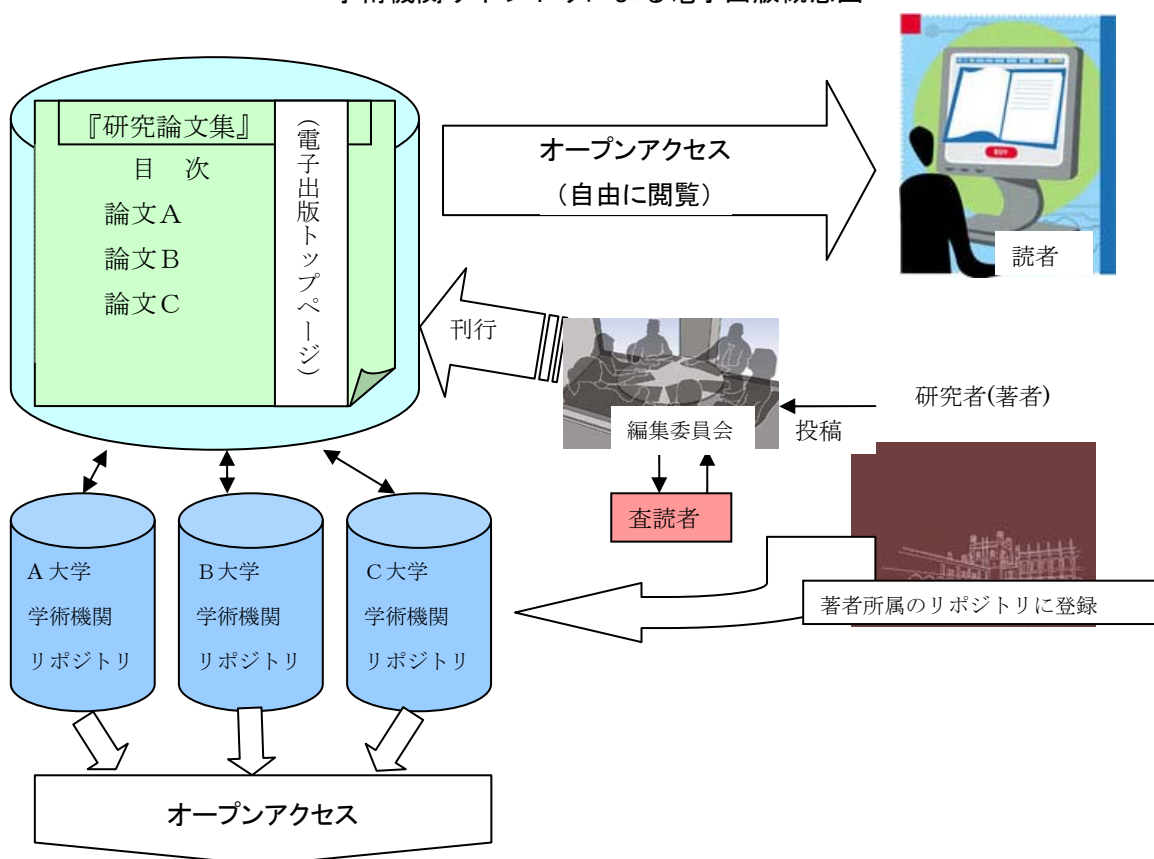
この論文集は、地区内の国立大学の研究者から投稿された教育系・文系の論文を対象に、各大学が協力して査読と編集を行い、電子的に刊行するもので、平成20年3月19日に公開しました。読者は、インターネット上の電子出版トップページにアクセスすることにより、各大学のリポジトリに置かれている論文を、無料で自由にいつでも閲覧することができます。(各大学のリポジトリに直接アクセスして閲覧することも可能)

この取組みは、大学にとっては情報発信力の強化や研究活動の公開促進、説明責任の履行に資するとともに、オープンな学術情報流通への大学の主体的な取り組みとして、全国の大学関係者から注目されています。

<参照 : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/ecrk/>>

(*) 学術機関リポジトリとは、大学等の学術機関において生産された研究成果を電子的に蓄積・保存し、インターネットを活用して広く発信するシステムのことで、各大学の図書館を中心に構築・運営されており、現在、国内ではおよそ74機関に設置されています。

学術機関リポジトリによる電子出版概念図



東北大学が東京を会場にして貴重資料の大規模公開を実施 (東北大学附属図書館)

◇ 博物館・報道機関との共催により所蔵する「漱石文庫」を本格的に紹介し、9万人もの参加

東北大学では、創立100周年を記念した展示会「文豪・夏目漱石：そのころとまなざし」を、江戸東京博物館、朝日新聞社との共催により開催しました（会場：江戸東京博物館、会期：平成19年9月26日～11月18日）。

研究機関としての大学、多彩な展示会を実施してきた博物館、報道機関として大きな広報力を持つ新聞社とが共催することにより、それぞれの特色を生かし、総展示資料800点余りという大規模な展示会を実現することができました。また、東京を会場にして東北大学附属図書館が所蔵する「漱石文庫」を本格的に紹介するという点でも大きな話題となりました。

会期中、約9万人もの漱石ファン・文学ファンが訪れ、講演会をはじめとする各種イベントにも多数の参加がありました。本展には、夏目漱石の生涯と作品の魅力、漱石が生きた時代の息吹が良く伝わったとのご意見やご感想、反響や共感の声が寄せられ、漱石を通じて大学図書館がより身近な存在として認知されるとともに、貴重資料の大規模公開によって市民の生涯学習活動の一端に貢献することができました。



江戸東京博物館



漱石自筆の自画像入り絵はがき



漱石文庫の中から漱石が留学中に購入した蔵書を一挙公開

古典籍30万点の画像情報を網羅的に5年計画でデータベース化し、一般に公開
(早稲田大学図書館)

◇ 国宝、重要文化財を含む30万点の和漢の貴重な古典籍の画像データベースをインターネットで公開

早稲田大学図書館では、平成17年度から5年計画で、国宝2件、重要文化財5件を含む館蔵の和漢の古典籍約30万点について、ほぼ網羅的にデータベース化し、全文のカラー画像をインターネット上で公開する計画を進めています。これらのデータは、図書館蔵書のオンライン目録(OPAC)にも収録されており、一般の研究書や翻刻資料と原本が横断的に検索できることで、教育研究上の便宜を図っています。

平成17年10月の公開以降、すでに14万点以上をデータベース化し、その多くが世界中のどこからでも自由にアクセスすることができるようになっていました。その結果、国内外からのアクセス数は累計で800万件を超えました。

また、本データベースを通じて、出版、展示、放映など様々なメディアに画像データを提供しており、個人や機関による学術研究や学校教育の場でも広く活用されています。さらに、毎年テーマを定め(平成17年:洋学資料、平成18年:江戸文学、平成19年:日本史)、歴史や文学など古い資料に興味を持つ人なら誰でも気軽に、展覧会感覚で利用できるようになっています。

<参照: <http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/index.html>>



古典籍総合データベースTOPページ



尾張国郡司百姓等解文(重要文化財)



敦盛絵巻(室町時代)

学内情報システムの一元化による学生指導の充実と業務の効率化

(名古屋工業大学)

◇学生証・職員証のICカード化による全学統一認証基盤及びポータル機能の導入による学内の教育・事務システムの一元化

名古屋工業大学では、平成19年4月より、学生証・職員証をICカード化し、教育・事務システムにICカードでログインする全学統一認証基盤を導入しています。

この導入により、学生証・職員証で、学内に散在する様々な教育・事務システムに一元的にアクセスすることができるようになり、セキュリティにも配慮された情報環境の提供が可能となりました。

また、これらのシステムを構成する出欠管理や図書館情報などの複数のアプリケーションを使いやすくするため、ユーザ毎に必要な情報を表示・提供する学生用・教職員用ポータルを構築しています。

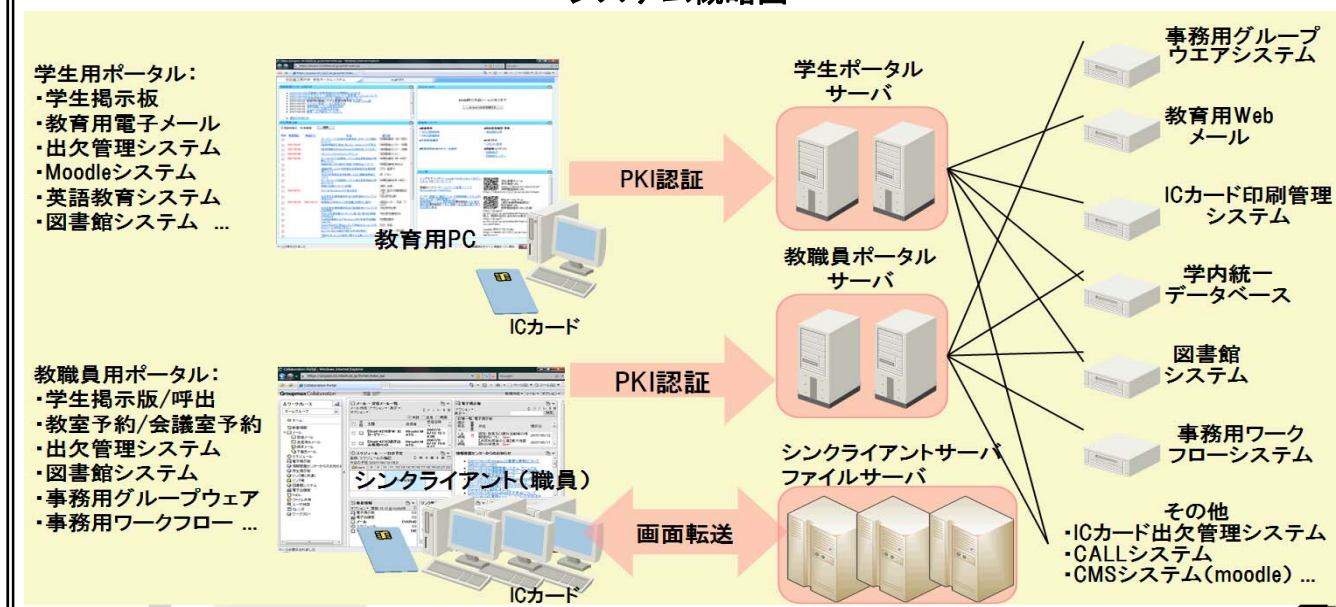
学生用ポータルは、学生向けの情報を一元的に提供することにより、教育リソースの有効活用を図るとともに、蓄積された課題提出データや出欠データ、教育用計算機・図書館の利用状況などを解析することにより、学生の修学指導をよりきめ細かに行うことが可能となりました。

教職員用ポータルでは、学術情報関連や予算関連などの各種手続きを一元的に扱うことにより、適切な情報管理、事務処理の電子化が図られており、業務効率の改善等に貢献しています。

なお、事務局内の様々な部門が分散管理している教員の研究情報、研究室情報などの共有を可能とする統一データベースシステムの開発も進めています。

名古屋工業大学における学内情報システムの一元化による学生指導の充実と業務効率化への取組みは、学術情報基盤の先進例として、国公立大学より注目されています。

システム概略図



情報科学への理解増進及び地域の情報教育の推進

(北海道大学情報基盤センター)

◇高校生等を対象とした、情報教育及びプログラミング教育を実施

高等学校における教科「情報」の履修により、情報活用能力の育成をめざす教育が推進される中、北海道大学情報基盤センターでは、平成 18 年度及び平成 19 年度に、高校生や教育関係者等を対象とした情報教育やプログラミング教育について、以下のような取組みを実施しています。

「情報教育研究会 楽しく学ぶ IT」(平成 19 年 2 月)を近隣の高校生及び初等中等教育関係者等を対象に開催しました。研究会では、コンピュータを使わない情報教育、プログラミング言語ドリトル講習会など、授業に役立つ知識やツールを実践的に紹介することにより、地域の情報教育の推進と知識の共有が図られています。

また、「日本情報教育開発協議会全国大会」の開催(平成 19 年 6 月)、TV 会議システムを用いた遠隔地高等学校との公開授業の試み(平成 19 年 9 月)など、情報基盤センターのシステムを有効活用し、初等中等教育との関係も考慮した多彩な活動が行われています。

その他、情報処理学会との共催により、初等中等教育段階の生徒を対象に、北海道大学・熊本大学・日本科学未来館をネットワークで結び、飛行船制御を遠隔地で行う「Let's GO! GO! マジカル・スプーン」企画(平成 19 年 10 月)が実施されています。

